| | |
|---|---|
| **質問** | 救命連鎖の心停止の予防とは具体的に救急救命にどのようなことですか？保温とか体位のことでしょうか？ |
| **回答** | 小児は大けが（外傷）、水の事故（溺水）、窒息などにより突然、死に至ることがあり、いずれも未然に防ぐことが大事。また成人の突然死の原因には急性心筋梗塞や脳卒中があり、これらは生活習慣病とも言われ、がんとともに日本人の主な死因となります。救命の連鎖における急性心筋梗塞や脳卒中での心停止の予防はその初期症状に気が付いて救急車などを呼ぶことを含みます。これによって心停止に至る前に医療機関で治療を開始することが可能となります。また高齢者の窒息や入浴中の事故、熱中症なども心停止の原因として多く、これを予防する、早く気が付くということが「心停止の予防」につながることを理解してください。 |
| **質問** | 雪上で AED を使う際も服は全て取り除くのでしょうか？ |
| **回答** | ご質問のとおり、AED のパッドは傷病者の肌に直接貼ることが重要となっています。スキー場という環境ではなかなかスキーウェアを脱がせるのは厳しいと思います。そこで付属のはさみ等で衣服を必要最低限切り取りパッドを貼ることとなります。屋外なので雪や雨なっでパッドを貼る場所が濡れないようにする配慮は必要となります。 |
| **質問** | 今シーズン当クラブでは、ジュニア育成支援に力を入れています。技術指導方法論に加えて、モチベーションを高めてスキー行事により多く参加して頂きたいと考えています。そこで、過去にご経験された技術指導以外でのジュニアのモチベーションアップに効果的なアプローチがあれば共有頂けませんでしょうか。 |
| **回答** | 今野副委員長、<br>スキーに疲れたり、寒かったりとモチベーションが下がる環境は否めないので、各スキー場にあるアクティビティーを活用して、スキー以外に遊ぶ時間を設けるなどすると効果的になることもある思います。また、クラブ単位での行事でしたら、スキー場に相談してポールの設置などして、タイム計測などすることで競争などしてみては、いかがでしょうか。<br>菅原委員長、<br>指導の場面での言語の工夫。例えば、プルークボーゲンの△の形を「おにぎり」「ピザ」、パラレルの形を「ポテト（フライ）」などのわかりやすい言葉に置き換えて説明する。このようなワードを日頃から、探しておき、雪上でジュニアが笑顔になってくれれば双方のモチベーションアップにつながるかもしれません。なお、2022 年教育本部オフィシャルブック「スキー指導者研修課題Ⅱ」もご参照ください。 |
| **質問** | SAJ のホームページから、規約規程などでダウンロードしておくべき項目がありましたらご指示ください。 |
| **回答** | 以下 SAJ ホームページ「公認スキー指導者検定　養成講習について（2024 年度）」の<br>「規約、規定の理解」をご確認ください。<br>http://www.ski-japan.or.jp/education/56404/ |